

|                |                          |
|----------------|--------------------------|
| 国名             | 国立ヌアクショット公衆衛生学校拡張・機材整備計画 |
| モーリタニア・イスラム共和国 |                          |



プロジェクトサイト（ヌアクショット）（出典：三角形）



ENSSS 校舎外観（出典：評価者撮影）

## I 案件概要

|            |  |                |               |                                   |
|------------|--|----------------|---------------|-----------------------------------|
| 事業の背景      | <p>モーリタニアでは、5 歳未満児の死亡率が 90/1,000 出生、妊産婦死亡率が 320/10 万出産（2015 年、WHO）と、サブサハラアフリカ平均（それぞれ 95/1,000 出生（2012 年、WHO）、500/10 万出産（2013 年、WHO））を下回っているものの、依然として高い水準にあった。このため、モーリタニア政府は「貧困削減戦略文書」（2011 年～2015 年）に基づき、「国家保健開発計画」（2012 年～2020 年）を策定し、保健人材開発及び保健サービスの提供を緊急の課題としていた。</p> <p>また、「保健人材開発戦略計画」（2006 年～2015 年）を策定し、各職種における 保健人材の確保、保健人材能力の改善、各保健施設における保健人材配置率の増加等に関する具体的な目標を掲げていた。当該国における中級保健人材養成は、1966 年に開設された国立ヌアクショット公衆衛生学校（現・国立衛生上級科学学校(ENSSS)）に加え、2009 年に開設されたキファ、2011 年に開設されたネマ、セルバビ、ロソの全 5 校の公衆衛生学校が担っていた。特に ENSSS は、全国で唯一、上級保健技師の養成コースを備える等、同国の公衆衛生学校の中でも中心的な役割を担うこととされた。他方、ENSSS では、フランスの援助による 1983 年の校舎の整備以降、本格的な施設の拡張工事等は行われておらず、定員の約 370 名に対し、2015 年には約 2.3 倍の約 850 名が在学している状況にあり、学習環境が悪化していた。これに加え、機材等の不足も深刻であり、カリキュラムに対応した授業が実践できない状況にあるため、ENSSS の施設拡張及び機材整備による教育環境改善が求められていた。</p> |                |               |                                   |
| 事業の目的      | 本事業は、ENSSS において校舎の増築及び機材整備を行い、質の高い保健人材の育成環境の整備を図り、もって同国の保健医療サービスの質・量の改善に寄与する。  |                |               |                                   |
| 実施内容       | 1.事業サイト：ヌアクショット市（人口約 100 万人）<br>2.日本側：11.82 億円<br>3.相手国側：0.23 億円   |                |               |                                   |
| 事業実施スケジュール | 交換公文締結日  | 2016 年 5 月 9 日 |               |                                   |
|            | 贈与契約締結日  | 2016 年 5 月 9 日 | 事業完了日         | 2018 年 4 月 23 日（施設建設の竣工及び機材の引渡完了） |
| 事業費        | 交換公文供与限度額・贈与契約供与限度額：1,182 百万円  |                | 実績額 1,182 百万円 |                                   |
| 相手国実施機関    | 保健省人材局（監督官庁）／国立ヌアクショット公衆衛生学校(事後評価時には国立衛生上級科学学校(ENSSS)と名称変更されている。)  |                |               |                                   |
| 案件従事者      | 本体：岩田地崎建設（株）、日世貿易<br>コンサルタント：(株) コーエイリサーチ&コンサルティング・ピンコーインターナショナル（株）JV  |                |               |                                   |

## II 評価結果

### 【要旨】

本事業は、国立衛生上級科学学校（ENSSS）において校舎の増築及び機材整備を行い、質の高い保健人材の育成環境の整備を図り、もって同国の保健医療サービスの質・量の改善に寄与することを目的とした。モーリタニア政府の国家開発計画・保健人材戦略計画に整合的であり、助産師・上級保健技師等、保健人材のニーズに対して既存施設では十分な人材育成ができない状況にあった。また、都市部における貧困削減を重点分野とする日本の開発協力方針とも合致し、世銀・フランス等のドナー

が実施する助産師育成事業とも相互補完的に本事業の目的達成に貢献している。以上により、妥当性・整合性が高い。有効性・インパクトについては、事業の実施により期待されたアウトカム・インパクトである質の高い保健人材の育成環境の整備と養成された保健人材による医療サービスの質の向上を概ね達成しているため、有効性・インパクトは高い。さらに、モーリタニアの国内手続きの遅延により事業期間はやや上回ったが、事業費は計画内に収まったため、効率性は高い。また本事業によって発現した効果の持続性も高く、その根拠は①実効性における課題はあるものの政策・制度は概ね整備されていること、②組織・体制は確保されているといえること、③教育機関としての技術レベルを維持しているうえ、トレーニング、マニュアル等も完備されていること、④維持管理予算が確保されていること、⑤導入された資機材の維持管理状況が概ね良好なことである。以上より、本事業の評価は非常に高いといえる。

|                   |   |         |                |           |   |     |   |     |   |
|-------------------|---|---------|----------------|-----------|---|-----|---|-----|---|
| 総合評価 <sup>1</sup> | A | 妥当性・整合性 | ③ <sup>2</sup> | 有効性・インパクト | ③ | 効率性 | ③ | 持続性 | ③ |
|-------------------|---|---------|----------------|-----------|---|-----|---|-----|---|

【留意点／評価の制約】

・モーリタニアの医療従事者の養成制度が事前評価時とは異なっており、養成数の事前・事後評価時の単純比較では誤解を招く恐れがあると判断されるため、補完情報を用いることとした。

1 妥当性・整合性

【妥当性】

・事前評価時のモーリタニア政府の開発政策との整合性

国家保健開発計画（2012-2020）では、保健システム強化のために介入すべき8つの優先分野（1.地理的利用のしやすさ；2.保健人材の開発；3.栄養治療を含む質の高い医薬品、ワクチン、消耗品の入手しやすさ；4.コミュニティアプローチの再活性化；5.質的・量的な財政改善；6.病院改革；7.制度的能力の強化；8.環境衛生の改善）に「保健人材の開発」があげられていた。介入を通じて保健システムを確立・強化し、5つの戦略活動方針（1.妊産婦・新生児死亡率の削減；2.乳幼児死亡率の削減；3.顧みられない熱帯病を含む主要感染性疾患対策；4.交通事故を含む非感染性疾患対策；5.上記4つの戦略活動方針と必須保健サービスへの普遍的なアクセスを支援する保健システム強化）の達成を目指していた。

さらに、保健人材開発戦略計画（2006-2015）では、1.各年、各職種に応じた必要な保健人材数の確保；2.サービスの質・量に対応した国家研修能力の向上；3.保健人材能力の効果的、持続可能な改善；4.保健システムの各レベルにおける保健人材配置率の増加；5.戦略計画の再検討、モニタリング評価、実施の持続的、効率的な方法の確立を目指していた。

以上より、本事業は事前評価時及び事後評価時ともに本事業の目的は、モーリタニアの開発政策と合致するものであった。

・事前評価時のモーリタニアにおける開発ニーズとの整合性

モーリタニアの保健の状況は、5歳未満児の死亡率が90/1000出生、妊産婦死亡率が320/10万出産（2015年、WHO）と、サハラ以南アフリカの中でも劣悪であり、国土が広大な中、社会インフラ整備が追い付かず、MDGs達成が危ぶまれる状況にあった。かかる状況下、保健人材の育成は必要数を大幅に下回っており、かつ、その中心的機関であるヌアクショット国立公衆衛生学校（現ENSSS）では、定員370名のところ約850名が在籍し、午前午後、あるいは実習の時期をずらす等して定員の倍以上の学生の授業を行っており、教育の質が確保できない状況であった。さらに同校は、X線技師、麻酔技師および臨床検査技師等の上級保健技師の養成など、重要かつ多岐に亘る保健人材育成の中心的役割が期待されているが、これら施設規模の問題により十分な役割を果たせていなかった。

以上より、計画時及び事後評価時において、質の高い保健人材の育成環境の整備を図る開発ニーズは高く、本事業はそれに合致したものであった。

【整合性】

・事前評価時における日本の開発協力方針との整合性

対モーリタニア・イスラム共和国別援助方針（2012年12月）では、「都市部における貧困削減」を重点分野とし、貧困削減に直結するインフラ整備等を支援することとしていた。本事業は、首都ヌアクショット市において、保健医療サービスの質・量の改善に資する公衆衛生学校を拡充するものであり、同方針に合致するものであった。

以上より、事業目標は日本の開発協力方針に合致するものであった。

・内的整合性

JICAの対モーリタニア援助において保健医療分野に関するものは本事業のみであり、他事業との相乗効果・相互関連は認められない。よって、内的整合性は確認できない。

・外的整合性

スペインにより、ENSSSにおいて2012年までに25名の教員育成が実施された他、2013年にはイタリア（NGO）によりENSSSに3教室が増設された。イタリアNGOが建設した3教室は旧校舎の一部であり、JICAが建設した建物とは別棟である。スペインによる資機材協力（無償）も旧校舎に対するものであり、重複はない。

さらに、世銀はSWEDD（女性の社会進出支援）（2015年～2024年）を予算支援として実施し、ENSSSの維持運営費を確保

<sup>1</sup> A：「非常に高い」、B：「高い」、C：「一部課題がある」、D：「低い」

<sup>2</sup> ④：「非常に高い」、③：「高い」、②：「やや低い」、①：「低い」

する上で貢献している。AfD（フランス）は母子支援事業（Temeyouz）（8百万ユーロ）（2020年～）を実施し、具体的にはAfDはENSSSに対しては助産師育成プログラムに対して技術協力分野を中心に支援を実施し、助産師を育成したものである。AfDの支援事業は、本事業の目的（質の高い保健人材の育成環境の整備）を達成する上で寄与した。また、SDGsの目標3（保健：すべての人に健康と福祉を）特に、「保健人材の採用、能力開発・訓練及び定着」（サブ目標3c）に一致している。

【評価判断】

以上より、本事業の妥当性・整合性は高い<sup>3</sup>。

2 有効性・インパクト<sup>4</sup>

【有効性】

ENSSSの校舎・教室及び機材の不足を補うことにより、通常運営時間（月曜日～金曜日の午前8時から午後4時の時間帯）に実施される授業時間が確保され、より多くの質の高い保健人材（看護師、上級保健技師）が養成される。これらの人材が全国の医療施設で医療業務に従事することにより、モーリタニアの保健医療サービス全体の質及び量の改善に寄与するという道筋を想定していた。

すなわち、校舎増築及び機材整備により、校舎・教室及び機材の不足解消（アウトプット）が図られ、学習効果の向上・学習機会の提供を通じて、良質の保健人材養成（アウトカム）が図られること。さらに、これらの人材が全国の医療施設で医療業務に従事することで、保健医療サービスの質・量の改善（インパクト）に貢献するというロジックである。

以下それぞれの観点について検証する。

まず、有効性に関する定量的効果指標としては、ENSSSの施設拡充を通じた生徒数・授業時間数の確保をベースとした指標を設定していた。そのうち看護師コース及び上級保健技師コースについて、「生徒一人当たりが在学中に受講する実習時間のうちENSSS通常運営時間内に実施される時間数」（指標2、指標4）を達成または概ね達成していた。なお、大学に格上げになったことにより、高卒認定（BAC）を入学要件としていない医療看護師の募集停止（指標3）（2018年度～）、さらに2020年以降のコロナ禍により対面式授業を必須とする養成プログラム（助産師・看護師）がフル・キャパシティで実施することができなくなったことから、直近の全校生徒数（指標1）は参考値として扱うことにした。

具体的には、看護師コースについては、目標1956時間に対して、事後評価時2145時間であり目標達成した一方、上級保健技師コースについては、目標1463時間に対して、事後評価時1350時間であり目標未達成であったが、事業実施前が0時間であったこと、通常運営時間外の補習・研修等によって補われていることから実質的な問題は生じていない。このように、ENSSSの校舎・教室及び機材の不足を補うことにより、授業時間が確保され、従来は教室不足のため不定期（通常運営時間外）にししか養成できなかった、上級保健技師が毎年育成されるようになったことにより上級保健技師の安定的供給に資するといえる。なお、モーリタニアには本校以外にもキファ、ロッソ、セリバビ、ネマの4か所にも看護師・助産師を養成する学校（職業訓練校）が存在するが、施設・機材・人材不足の問題もあり上級保健技師養成コースは提供されていない。

本事業の実施が契機となって、従来の保健人材育成に加えて、より高度な看護保健技術・知識を提供する高等教育職機関としての役割を担わせようとする機運が高まり、2018年には大学への格上げが決定した。大学への格上げに伴い、従来の入学条件より厳しい入学要件、すなわち、高卒認定（BAC）が入学要件となったことにより、従来と比較しより優秀な生徒の入学・人材養成ができるようになった。事後評価時において、従来世界保健機構（WHO）がモデルカリキュラムとして提案していたカリキュラム（臨床期間を含めた全体の教育年数の拡充）は計画通り導入されつつある。

これらの改善により本事業は「質の高い保健人材の育成」に貢献したといえる。

【インパクト】

・インパクトの発現状況

計画時に想定されたインパクトは「養成された保健人材による保健医療サービスの質の向上」であった。

以下の在籍者数が示すように、例年、助産師・看護師・上級保健技師が約500名養成され、時々の医療ニーズに対応すべく全国の病院に配置され、医療サービスに従事している。特に2020年～2021年はコロナ禍の発生により、多くの医療従事者の需要があったが、ENSSSの卒業生の多くもこれら業務に従事した。

|         | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 助産師     | 156  | 152  | 120  | 118  | 112  | 259  | 218  | 110  |
| 看護師     | 217  | 183  | 143  | 62   | 113  | 159  | 269  | 210  |
| 医療社会看護師 | 405  | 419  | 214  | 189  | 478  | 289  | 0    | 0    |
| 上級保健技師  | 81   | 0    | 0    | 137  | 134  | 127  | 74   | 168  |
| 合計数     | 859  | 754  | 477  | 506  | 837  | 954  | 561  | 488  |

一方、質的インパクトを把握するため、国立中央病院及び産婦人科病院（ヌアクシヨット）でENSSS卒業生・インターン生、同僚約20名に対してヒアリングを実施した。ENSSSの卒業生に対する評価は概ね好評であり、ヒアリングによれば、特に助産師・看護師の育成などENSSSの活動として重視し、かつ他ドナーからの追加支援がある分野でのENSSSに対する評価が高かった。しかし、医療技術の急速の発展に対応する必要がある上級保健技師についてはENSSSには一部の分野（例えば解剖学）について、最新の機材が整備されていないため、機材の使い方を習得するため臨床教育（国立中央病院）が不可欠であるとの意見があった。さらに、機材が整備されている病院とそうでない病院との格差が医療サービスの地域格差に直結するため問題であるとの指摘もあった。

以上のように、養成された保健人材がモーリタニア全体の保健人材の需要を充足することに一定の貢献をしたといえる。一方で、保健医療サービスの質については医療機器の充足度等に依存し、保健人材の充足の有無をもってのみ判断することができないことから本事業としてのインパクトとしては現状では十分に確認ができない。

<sup>3</sup> 妥当性は③、整合性は③。

<sup>4</sup> 有効性の判断にインパクトも加味して、レーティングを行う。

・その他、正負のインパクト

JICA 環境社会配慮ガイドライン（2010年）を適用し、自然環境面について本事業は環境社会配慮について「カテゴリ C」に該当する。本事業は既存の校舎敷地内での増築工事であり、土壌汚染、騒音、振動等を含め期間中・工事後においても環境影響はみられなかった。同様に、用地取得・住民移転は行われなかった。一方で、校舎が塀で囲われていないので、学校関係者以外が自由に入ることができ、セキュリティ上の問題がみられた。

【評価判断】

事業の実施により、期待されたアウトカム・インパクトは概ね計画通りに達成され、想定通りの効果の実現しており、長期的にも社会、環境、経済面でマイナスのインパクトはほとんどない。

以上より、本事業の有効性・インパクトは高い。

<定量的効果>

| 指標   | 基準年<br>2013年度<br>計画年度 | 目標年<br>2020年度<br>事業完成3年後 | 実績値<br>2018年度<br>事業完成年度 | 実績値<br>2019年度<br>事業完成1年後 | 実績値<br>2020年度<br>事業完成2年後 | 実績値(注2)<br>2021年度<br>事業完成3年後 |
|--|-----------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 指標1<br>全校生徒数(人)(ENSSS)   | 861                   | 1223                     | 837                     | 954                      | 561                      | 488                          |
| 指標2<br>看護師コースの生徒一人当たりが在学中に受講する実習時間のうち、ENSSS 通常運営時間内(注1)に実施される時間数(時間)     | 1564                  | 1956                     | NA                      | NA                       | NA                       | 2145                         |
| 指標3<br>医療社会看護師コースの生徒一人当たりが在学中に受講する実習時間のうち、ENSSS 通常運営時間内(注1)に実施される時間数(時間) | 963                   | 1376                     | 制度廃止                    | 制度廃止                     | 制度廃止                     | 制度廃止                         |
| 指標4<br>上級保健技師コースの生徒一人当たりが在学中に受講する実習時間のうち、ENSSS 通常運営時間内(注1)に実施される時間数(時間)  | 0                     | 1463                     | NA                      | NA                       | NA                       | 1350                         |

出所：基準値・目標値は事業事前事後評価表、実績値は質問票への回答

注1：通常運営時間とは、ENSSS が通常開講時間としている月曜から金曜の午前8時から午後4時を指す。計画時、実習室が不足していることから通常運営時間外や土日にも多くの実習が行われており、生徒の出席率が低い等の問題が生じていた。

注2：本事業の計画では、事業完成3年後にあたる2020年度(2020年9月～2021年8月)が目標年であったが、事業の完成が約半年遅れたことにより2021年度(2021年9月～2022年8月)が事業完成3年後である。

3 効率性

本事業のアウトプットの実績は、おおむね計画(「I 案件概要」の実施内容に記載)どおりであった。施設のレイアウト等に変更があったが、事業効果に影響するような変更はなかった。

事業費の総額は、計画では1,205百万円(日本側1,182百万円、モーリタニア側23百万円)であった。このうち、日本側協力金額は、計画の1,182百万円に対し実績が1,132百万円(計画比96%)であり、ほぼ計画どおりであった。モーリタニア側負担費用は、計画の23百万円に対し、実績が23百万円であった。

事業期間は、計画の22ヵ月に対し実績が24ヵ月(計画比109%)であり、計画を上回った。もっとも、事業開始が建設許可等モーリタニアの国内手続きの遅延等により計画より約7ヵ月遅れたために、完成時期は当初計画より約6ヵ月遅れ、2018年4月末に竣工した。

【評価判断】

以上より、事業期間は上回ったが、事業費が計画内に収まったため、効率性は高い。

4 持続性

・政策・制度

コロナ禍を経て、モーリタニア政府は引き続き「保健人材の採用、能力開発・訓練及び定着を大幅に拡大」(SDGs目標3、サブ目標3c)することについて政治的コミットメントを維持している。このため発現された援助効果は維持されるものと見込まれる。

加えて、ENSSSの大学への格上げ(2018年度から実施)と学士・修士・博士課程の創設(2022年度から実施予定)にともな

い、保健省ともに高等教育省も監督機関となる予定である。しかし、高等教育化にみあう教員人材の確保や更なる高度施設や経営のIT化が課題である。一例を挙げれば、生徒数の把握がコンピュータ化されておらず、入学者数・卒業者数等のデータの信頼性が低く、効率的な組織管理ができていない。

以上より、実効性における課題はあるものの政策・制度は概ね整備されているといえる。

#### ・組織・体制

校長以下、事務・財務部長を中心とする管理体制がとられており、学期中には教務部・継続教育部・経理部等の担当職員・管理職が運営を維持している。配置されている人数は完了届（2018年）時点から変更なく、以下の通り（カッコ内は人数）である。

校長(1)；事務系管理職(6)；研究部長(1)；司書(2)、教務担当(1)、インターン担当(4)；導入教育担当(2)；継続教育担当(3、うち部長1)、事務・財務部長(1)、事務職(5)；施設維持管理(1)；経理(2)；企画(1)；渉外担当(1)；評価(1)；その他(キッチン、清掃、警備担当等、34)合計66名(常勤)。非常勤講師として、授業担当を国立中央病院の医師・看護師等(60名)が行っている。

現状では、組織・体制は確保されているといえるものの、大学に格上げし、学士・修士・博士課程を本格的に導入するためには、授業担当を行う常勤教員(教授・准教授等)を備える必要があり、現状の体制では不十分であり、今後整備すべき課題である。

#### ・技術

助産師教育についてはフランス(AfD)の技術支援を受けつつ技術レベルを維持している。トレーニング、マニュアル等も完備されている。よって、技術レベルは備わっているものの、技術レベルが維持されるためには外部からの継続的な技術支援が有効であり、Training of Trainers(TOT)などを、JICAの技術協力プロジェクトにより実施することも有効であると考えられる。

#### ・財務

予算化は行われており、また世銀のbudget support(SWEED)も予算を補完している。支出については建物・施設の維持管理に関する費用のほか、教育施設の性質上、教員への人件費やセミナー開催等も実施され予算化・支出されている。また運営のための予算も確保されている。

単位：百万ウギヤ

|         | 2019 | 2020 | 2021 |
|---------|------|------|------|
| 予算(補正後) | 40.9 | 34.8 | 34.9 |
| 支出      | 32.9 | 34.0 | 34.9 |
| うち 維持管理 | 2.2  | 0.7  | 1.0  |

出典：ENSSS

注：維持管理費は建物・施設の維持管理に関する費用のみを計上

#### ・環境社会配慮

計画時に負の影響インパクトは想定されておらず、負の影響は特になかった。

#### ・リスクへの対応

スペインが校舎建設の援助を行うことになってきたため、本事業との重複が懸念されていたが、スペイン援助は旧校舎への支援であり、JICAが実施した新校舎とは重複していない。

#### ・運営・維持管理状況

資機材の維持管理状況は概ね良好である。校舎は定期的に清掃・メンテナンスされており、各教室・倉庫等も清潔に維持管理されている。また、マネキン等の実験器具や授業用AV機材の手入れもなされており、日々の教育活動に特段の支障はみられない。

但し教室の電灯が切れていたり、校舎のペンキが一部剥がれている程度の軽微な維持補修の必要は認められた。

#### 【評価判断】

以上より、本事業によって発現した効果の持続性は高い。

### III 提言・教訓

#### ・実施機関への提言：

学生管理が手書きの名簿しかなく、学生数の把握もできていない。このため、2023年度新学期開始(2023年10月)までに、ENSSS本部(IT担当者)はENSSSのサーバー整備、カリキュラムの合理化・可視化、学生管理(学籍・成績等)のIT化を行う必要がある。

また、中国援助による建屋建設の際の工事用通路(西側通路)がそのまま通常の学校へのエントランスとして使用されており、セキュリティ・チェックもないため、繁華街から直に人が自由に流入できる構造であるため安全面での不安がある。なお、中国援助による建屋は当初想定されておらず、ENSSSの旧校舎側にENSSSの入り口・門扉が設置されている。現状では、旧校舎のみが塀に囲われている状況で、本事業で建設された建屋は塀にも囲われていない。なお、中国援助による建屋はいずれも有刺鉄線による塀で囲われている。このため、2023年度新学期開始(2023年10月)までに、ENSSS本部ないし監督官庁の保健省が通用道路に門扉を設置するあるいは新校舎(本事業による建屋)の周辺に塀を建設するなどの措置を取る必要がある。



・ JICA への提言：

高等教育機関（大学）への格上げが 2018 年度から施行し、2022 年度からは学士・修士・博士課程の導入が予定されているが、現状では研究指導にあたる研究者が専任スタッフとして在籍しておらず中央病院の医師等が非常勤で講義を担当している。また、研究を行うための医療機器（精密機器等）が不足している。さらに、前述のような組織管理のための IT 導入が遅れているの現状である。このように大学教育の核を担う研究者を中心とする人材確保や研究者養成カリキュラムの新設、学生管理の把握を含めた IT 化の拡充等、大学組織として運営していく際のマネジメントのキャパシティが不足している。このため、中長期的な対応案として、ニーズ調査を実施したうえで、JICA による大学の運営管理能力向上に係る協力（大学運営に係る課題抽出のための調査実施、組織運営・財務・IT 普及等長期専門家の派遣、国内・第三国研修、TOT の実施等）を実施することで、これらの問題に対応することが望ましい。それにより、本事業で想定されたプロジェクト目標、上位目標、インパクト、持続性の達成に貢献することも期待され、本事業との相乗効果も期待できる。

・ 教訓：

2020 年～2022 年まではコロナ禍による厳しい入国制限等があったものの複数回現地訪問を行っている点は評価できる。入国制限時にはやむを得ない面もあるが、兼轄国の案件監理ないしドナー間との調整はともすれば手薄になりがちなので、出張ベースないしリモートでの参加をさらにいっそう増やすことが望ましい状況であった。現状では、ENSSS 校舎敷地内に事前に日本側に相談なく中国援助による建屋が建設された事例や現地ドナー会合においてオブザーバーとして参加する場合もあるが、公式文書（ないし対処方針案）に示された公式見解以外の肉声でドナーとしての現場経験を踏まえた方針や方向性が示されることが少ないため（英語ないしフランス語での専門的な協議に欧米ドナーと対等に渡り合えるスタッフも少なく）「日本側の顔が見えない」（AfD でのインタビュー）との印象を持たれるなど、必ずしも日本側の意図が十分に伝わっていない。

なお、モーリタニアは中国援助により、国立中央病院等へ医師・看護師の派遣や医療機器（眼底検査機等、日本製精密機器の調達もされている）を提供されており、国立中央病院内では中国による援助であるにも関わらず日本側（事後評価チーム）への謝辞が示されるなどの混乱も見られた。日本援助全般への感謝の裏返しともとれるが、日本側の援助目的がモーリタニア側に伝わっていないことの証左ともいえる。

中国は国立中央病院の新病棟の建設も手掛けており、モーリタニア側からは主要ドナーと認識されていることもあり、外交ルート、民間ルートを通じた公式・非公式ベースでの中国援助の情報収集、AfD など主要ドナーとの意思疎通や情報共有をリモートベースでも行っていれば、回避できた問題（中国による敷地内建屋建設による工事用車両通路の開通・放置と繁華街から直に人が ENSSS 構内に流入することによる校内セキュリティの悪化の懸念）もあった。中国援助は OECD 非メンバー国で情報開示もされることが少ないこともあり、欧米ドナーや JICA が直接に関係を構築しようとしても困難な部分も多い。一方で、病院・医療分野に対する中国のモーリタニア援助・投資は無視できない規模に膨らみ大きな存在感を示している。日本としては外交や民間ルートを通じて多角的な情報収集を行うなど、従来とは異なる方法で情報収集のルートを開拓していくことが望まれる。

今後 JICA が事務所を有さない国で事業を形成・実施する場合、出張・リモート双方の手段を駆使し、従来のドナー間協調・情報収集に加え、外交・民間ルートを含めた多角的な情報収集ルートの開拓を行うことが望ましい。

## VI ノンスコア項目

・ 適応・貢献

コロナ対応において ENSSS 出身者が PCR 検査技師ないし看護師として国立中央病院で勤務するなど、貢献を果たした。現地調査時（2022 年 8 月）には 4 名ないし 5 名の検査技師が勤務していたが、全員 ENSSS 出身者であり、PCR 検査がモーリタニア出入国の要件になっていた時期（2022 年 3 月頃まで）は 10 名以上の検査技師が常勤しており、その多くが ENSSS 出身者（インターン生を含む）であった。ENSSS での教育の一環として病院での勤務経験が求められており、インターン生の手を借りてでも任務を遂行しなければならないほど、繁忙を極めていたためのことである。

・ 付加価値・創造価値

本事業による施設拡充が医療人材育成に対する国民の関心を高め、職業訓練校が高等教育機関に格上げになるとともに医療従事者の養成プログラムが強化される契機となった。BAC（高卒資格）がなければ入学できなくなったことから、従前より入学者の質が高くなった傾向はあるという一方、学士・修士・博士課程の整備及びそれに伴う人材確保・カリキュラム面での強化は 2022 年度入学者以降に実施され、その成果を把握するためには今後さらに時間を要する。



ENSSS 校舎（中央）（出典：評価者撮影）



開校式記念プレート（校舎入口）（出典：評価者撮影）



助産師養成コース（出典：ENSSS 提供）



看護師養成コース（出典：ENSSS 提供）